授業を創る

教科としての小学校英語への挑戦

海野美保・常葉大学教育学部附属橘小学校英語科主任

2020年、新学習指導要領のもとで、小学校3、4年生では外国語活動が、そして5、6年生では教科としての外国語が始まる。

本校では、1年生から6年生まで週2時間（本年度より5、6年生は週3時間）、ネーティブの教師と日本人の英語教師とのチーム・ティーチングにより授業を行っている。6年間クラスの仲間と体験的に学ぶことにより、英語の楽しさを実感し、基礎・基本を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育てることを目標としている。これは、新学習指導要領が目指す方向性と同じだと考える。また、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を育てるため、次のようにカリキュラムを整備した。

全学年が毎月同じテーマで学習

まず、6年間の児童の発達段階を考え、低中高の三つに分けて学習活動を位置づけたカリキュラムを編成した。

低学年は、たくさんの英語に触れ、親しむことを目標とした。「聞く」「話す」を中心に活動する。歌や絵本の読み聞かせ、塗り絵や工作といった体験を通して英語に慣れ親しませ、並行して、文字の名前と音の学習も採り入れる。

中学年は、やさしい英語を使ってコミュニケーションを図ろうとすることを目標とした。それを支える学習として、文字と音のつながりを学習するフォニックスや、オクスフォード出版の絵本でのリーディングを行っている。

高学年では、場面設定を工夫し、より実践的な表現活動を行うことを目標とした。フォニックスやリーディングを通して、読み書きの力を伸ばすと同時に、中学校2年程度の語彙（ごい）や文法、表現を学習している。その集大成が6年時の沖縄英語研修におけるアメリカンスクール訪問やホームステイである。また、希望者対象にオーストラリア姉妹校訪問を含んだ研修もあり、より豊かに英語を体験できる機会をつくっている。

全学年、共通の月テーマに沿ったコミュニケーション活動、フォニックス、リーディングの三本柱で授業を行っている。中でもコミュニケーション活動には力を入れている。毎年、同じ月に同じテーマでコミュニケーション活動を行う利点は、既習事項を思い出し、さらに発展した表現を増やしていけることである。4月のテーマ「自己紹介」に関して例を挙げると、低学年では、歌で、名前を尋ねたり答えたりする表現を学ぶ。中学年では、名前だけでなく、好きなものや住んでいる場所まで話題を広げて友達とやりとりするとともに、書く活動も採り入れる。高学年では、まとまった文を作って自己紹介を行う。このようなスパイラル的な発展が、英語研修での自己紹介や質問、応答に生かされている。

また、昨年豪州の姉妹校の生徒が来校した際、1年生が進んで話しかけてサインをもらったり、高学年が会食を通して交流を深めたりするなど、それぞれの学年に応じてコミュニケーションをとる姿が見られ、授業での学びが実践につながっていると実感できた。

6年間を通して4技能の定着を見ると、若干のばらつきはあるものの、中学校2年程度の学力をつけているものと考えている。「聞く」力は高く、「書く」力はやや低い。語彙に関する知識は十分ではないが、「読む」ことにあまり抵抗なく取り組む。正確な文で「話す」ことは難しいが、分かる単語を駆使して話そうとする姿勢が育っており、目標とするコミュニケーション能力の成長を実感している。

本校では、上級学校で意欲的に英語学習に取り組むことができる児童を育てるため、その土台となるものを育んでいきたいと考えている。

教育支援サイト http://es.jiji.com